

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

Itoh K, Katsumi Y, Hirota S, et al. Effects of trigger point acupuncture on chronic low back pain in elderly patients—a sham-controlled randomised trial. *Acupuncture in Medicine* 2006; 24(1): 5-12. CENTRAL ID: CN-00564255, PMID: 16618043

1. 目的

慢性腰痛患者の痛みと QOL に対するトリガーポイント鍼治療とシャム鍼治療の有効性の比較

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (クロスオーバー) (RCT- cross over)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院、京都、日本

4. 参加者

65 歳以上で発症後 6 か月以上経過した高齢慢性腰痛患者 26 名 (男 9 名/女 17 名、年齢 65-91 歳)。

5. 介入

Arm 1: A 群 (13 名、73.5±10.0 歳)。トリガーポイント鍼治療→シャム鍼治療

Arm 2: B 群 (13 名、78.8±4.7 歳)。シャム鍼治療→トリガーポイント鍼治療

トリガーポイント鍼治療：ステンレス鍼 (0.2×50mm、セイリン製) をトリガーポイントに 10-40mm 刺入し雀啄を施した。患者の得気を得た後、10 分間置鍼した。シャム鍼治療：先端を鈍にしたステンレス鍼 (0.2×50mm、セイリン製) をトリガーポイントに当て刺激。患者には、刺入して雀啄を施しているように見せかけ、10 分後に再度抜鍼する真似をした。

いずれの群も、週に 1 度の治療 (30 分) を 3 回受け (第 1 期)、3 週間のウォッシュアウト期間を置いた後、別の治療 (30 分) を週に 1 度 3 回受けた (第 2 期)。その後更に 3 週間観察した。全試験期間は 12 週間であった。

Arm 1 の 3 名、Arm 2 の 4 名が脱落した。

6. 主なアウトカム評価項目

VAS による痛み評価および Roland Morris Disability Questionnaire (RMDQ)

7. 主な結果

A 群は、第 1 期において、VAS ($P<0.001$)、RMDQ ($P<0.01$) は、いずれも B 群に比較して低値を示した。また、VAS ($P<0.01$)、RMDQ ($P<0.01$) は、いずれもグループ内比較 (前後比較) において、トリガーポイント鍼治療期に低値を示したが、シャム鍼期には変化がなかった。

8. 結論

トリガーポイント鍼治療は高齢者の腰痛に対して、シャム鍼と比較して、短期的には有効である。

9. 鍼灸学的言及

高齢者の腰痛に対しては、伝統的な経穴を用いた治療よりもトリガーポイント治療の方が有効である可能性がある」と記載している。

10. 論文中の安全性評価

トリガーポイント鍼治療を受けた患者 1 名で症状の悪化がみられた。

11. Abstractor のコメント

本研究は、高齢の腰痛患者に対し、シャム鍼に比較してトリガーポイント鍼治療が有効であるということを示した非常に良くデザインされたクロスオーバー RCT 研究である。約 4 分の 1 の患者が脱落している、ITT 解析がなされていないなどの点が改善されれば、結果の信頼性、外的妥当性がさらに向上すると考えられる。

12. Abstractor

若山育郎 2011.9.11